

企画セッション

◆ 医療ビッグデータと IT : 医療情報の二次利用について ◆

【講演者】

菅原大嵩 (内閣府 健康・医療戦略推進事務局)

吉原博幸 (ライフデータイニシアティブ 代表理事、京都大学・宮崎大学名誉教授)

東郷香苗 (ファイザー株式会社 ヘルス&バリュー統括部

アウトカム&エビデンス アナリティクス担当部長)

石埜正穂 (札幌医大 医学部 教授) : モデレーター

【内容】

医療情報の AI 活用は、医療提供の最適化に資するばかりでなく、新しい診断・治療法の開発に大きく貢献する潜在性を持つ。しかしこれを推進するためには、個人情報保護、セキュリティー、標準化など、乗り越えなければいけない大きな課題が多数存在する。本セッションでは、個人情報保護法の改正を受けて最近整備された次世代医療基盤法下での医療情報の活用の実態や限界について考察しつつ、「臨床的行為」を通じて取得する医療情報の二次利用の課題について検討したい。

企画セッション

◆ 医療ビッグデータと IT : 医療情報の二次利用について ◆

【講演者略歴】

菅原大嵩 (内閣府 健康・医療戦略推進事務局)

慶應義塾大学法学部政治学科卒業。2019 年 4 月厚生労働省に入省。医政局地域医療計画課で医療計画、地域医療構想など今後の人口構造の変化を踏まえた医療提供体制の整備を担当。2021 年 7 月より現職。

吉原博幸 (ライフデータイニシアティブ 代表理事、京都大学・宮崎大学名誉教授)

1949 年長崎県佐世保市生まれ。大阪大学で有機化学、宮崎医科大学で医学を学び、生理学で学位 (医学博士)、1995 年まで外科 (消化器)。その後医療情報学分野へ。1995 年より宮崎医科大学、2000 年より熊本大学、2003 年より京都大学で医療情報学教授を務める。2013 年京都大学を退任後、京都大学 (情報学研究科、のちに医学研究科) で EHR 共同研究講座を主宰し現在に至る。2014.4~2016.3 まで宮崎大学病院長兼任。1995 年より医療情報の共通化・標準化プロジェクト (MML: Medical Markup Language)、2001 年より第 1 次 EHR プロジェクト (Dolphin Project)、2015 年より第 2 次 EHR プロジェクト (千年カルテ) を開始。2018 年より、LDI 代表理事。

東郷香苗 (ファイザー株式会社 ヘルス&バリュー統括部 アウトカム&エビデンス アナリティクス担当部長)

成蹊大学大学院 理工学研究科 博士号取得。製薬企業において医薬品開発に医学統計を専門として約 15 年にわたり従事。現在は、医療データベース等のリアルワールドデータを用いた臨床研究や疫学研究を行い、医薬品や疾患の疫学に関するエビデンスを創出している。また、日本製薬工業協会、米国研究製薬工業協会、日本薬剤疫学会等でリアルワールドデータ活用促進のための活動を行っている。

石埜正穂 (札幌医科大学 大学院医学研究科/医学部 教授)

長野県生まれ。札幌医大大学院医学研究科博士課程修了。セントルイス大学分子ウイルス学研究所研究員、札幌医大附属がん研究所講師、同大医学部衛生学講座准教授を経て、2011 年より現職。同大附属産学・地域連携センター開発部門長を兼務し大学の産学連携・開発研究をサポート。委員等として AMED 知的財産有識者委員、ARO 協議会知財専門家連絡会代表者、medU-net 運営委員長、知財学会学会誌編集・企画委員など。医療分野における特許戦略・産学連携・知財教育を専門とし、最近では特許と薬事の包括的な制度設計の在り方、再生医療実用化のインフラ等を研究。